

オオカミの尿のにおいで獣害撃退

イノシシやシカの天敵であるオオカミの尿を、農作物の獣害防止に使う試みが長野県などで広がっている。尿のにおいでオオカミを嫌う動物たちを寄せ付けない作戦。輸入したオオカミの尿が動物の忌避剤として市販され始めたため、農作物を守る新たな資材となるのか、獣害に悩む産地は関心を強めている。

長野県高山村の山際に沿うように植栽した10坪のリンゴ園では、以前からクマの食害があり、昨年からはイノシシも出没するようになった。

園の持ち主でJA須高小布施支所長代理の滝澤聖さんは、8月下旬からオオカミの尿(商品名「ウルフピー」)の設置を始めた。10cc入るビニ-

天敵嫌う本能を刺激 長野県各地で試験利用



リンゴ園に設置したオオカミの尿入りの容器

ル製容器に穴を空け、木を支えるワイヤなどに4、5坪間隔でぶら下げた。イノシシやクマの鼻の位置に近くなるよう、高さは50センチほどにしていく。

滝沢さんは、動物の侵入を防ぐ漁網や爆竹、黄色灯などを併用しているため、効果は区別できないというが、「オオカミ

の尿を置いてからは(クマやイノシシが)来ない気がする」と話す。

オオカミの尿は、トウガラシ由来のカプサイシンなどの刺激臭と異なり、有害獣がにおいに慣れてしまうことがないのが利点とされる。県内では、リンゴ園のほか、桃やブドウ、ナガイモやレタスなどでも試験的な設

置が行われている。「ウルフピー」は東京都の業者が輸入し、長野県松本市の農業資材会社に「ウルフピー普及協会」の事務局がある。協会では「植え付けや収穫など被害に遭いやしい時期に、防護柵などと併用すると効果的だ」と説明する。200cc(価格4900円)で10坪をカバーし、1カ月間使える。問い合わせは同協会、(電)0268(82)5377。